

4. 指導を受けて

当社ではリスクアセスメント指導を受けるまでに、作業環境改善のため経営資源を大きく投入していた。今回3タイプ、4種類の評価を実施した結果、リスク評価はⅢ～Ⅴまでばらつきが出たが、どの評価方法でも改善が必要との結論となった。アセスメントを実施したのは工程の職長（責任者）であり、彼ら自身が改善の必要性を感じ取ってくれたことが最大の収穫であった。

5. 今後の取り組み

当社では有機溶剤を大量に取り扱うため作業環境への配慮以外にも爆発、火災、酸素欠乏、漏えい、流出等のリスクを持っているため日々の安全活動は最重要課題である。作業環境改善について当社の進め方は尿中DMFの低減を最重要項目として取り組むこととする。

① 尿中DMFの区分と削減目標

（対象人員は全従業員。分布4,5は社内で便宜上作った規格）

分布5	200mg/l 超	対象ゼロ人 : H20年6月達成
分布4	100mg/l 超 ~ 200mg/l以下	対象ゼロ人 : H20年12月達成
分布3	40mg/l 超 ~ 100mg/l以下	対象ゼロ人 : 現在の目標
分布2	10mg/l 超 ~ 40mg/l 以下	
分布1	10mg/l 以下	

② 尿中DMFの低減のための実務事項

- ㊦ DMF ガス発生源のガス検知管による測定箇所の拡大
- ㊧ 化学物質リスクアセスメント実務担当者の養成
- ㊨ 保護具着用の作業範囲の、ガス検知管測定結果に基づく定期的な見直し
- ㊩ 溶剤発生源の密閉化の推進
- ㊪ DMF フリー技術の開発